

平成23年12月

各 位

京都大学高等教育研究開発推進センター
センター長 田中 每実

「第83回公開研究会」の開催について

平素は、本センターの活動にご協力を賜り、ありがとうございます。

このたび、第83回公開研究会「大学教育におけるポートフォリオの活用—授業改善からカリキュラム改善へ—」を、平成24年2月12日（日）に開催しますので、お知らせ致します。

また、本研究会について関係者の方へのご周知を、併せてお願い申し上げます。

※ 問い合わせ先

京都大学学務部共通教育推進課管理掛

730center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

大学教育における ポートフォリオの活用

～授業改善からカリキュラム改善へ～

日時

2012年2月12日(日)
13:30～18:00 (受付開始:13:00～)

場所

京都大学
百周年時計台記念館 国際交流ホール

参加費

無料(情報交換会は5,000円)

同時通訳
あり

事前申込み制

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/fd/project/symposium/>



ダニエル・バーンスタイン

近年、分野別質保証の議論などを契機として、カリキュラムを改善するための方策や仕組みに関心が集まっている。これまでは、授業改善が個人の営みの中で閉じられてしまい、カリキュラム改善につながらないという課題があった。それは、個々の授業で何をどのように教えているのかという具体的な実践を可視化し、教員間で共有することの難しさが背景にあるといえる。この解決の手立てとして、コースポートフォリオやカリキュラムマップを用いた取組が始まっている。本シンポジウムでは、これらの具体的な事例をもとに、個人レベルの授業改善と組織レベルのカリキュラム改善との往還を可能とするためのコースポートフォリオ活用の可能性について議論する。

基調講演

ISSOTL次期会長 ダニエル・バーンスタイン氏
『ティーチングにおける知的活動の表象：
教授・学習を可視化する』

Daniel Bernstein

カンザス大学心理学教授、ティーチング・エクセレンス・センター長。人間の動機づけや学習に関する研究を推進しており、近年は対面とオンラインのブレンド型コースにおける学生の理解の発達について研究をおこなっている。前任校のネブラスカ大学では、コースポートフォリオの作成とピアレビューにもとづく5大学の連携プロジェクト "Peer Review of Teaching" を主導した。その成果は、著書 "Making Teaching and Learning Visible" にまとめられている。現在は、大学の大規模授業におけるライティング・批判的思考・ライブラリスキルの向上支援や、授業改善において教授上の効果を高めるためのアセスメントの利用に関するプロジェクトを遂行している。ネブラスカ大学 Academy of Distinguished Teachers 会員、1998年カーネギースカラール "The Behavior Analyst" 編集委員長、実験的行動分析学会会長を歴任。

パネリスト



平山 朋子
藍野大学



土井 智晴
大阪府立大学
工業高等専門学校



小川 勤
山口大学



酒井 博之
京都大学



栗田 佳代子
大学評価・
学位授与機構



飯吉 透
マサチューセッツ
工科大学

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター 共催：関西地区FD連絡協議会
本研究会は特別経費プロジェクト「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」の一環です。

問い合わせ先

京都大学学務部共通教育推進課管理掛
e-mail: 730center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

プログラム

- 13:30 開会挨拶 田中每実（京都大学 高等教育研究開発推進センター長）
13:35 司会・趣旨説明 田口真奈（京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授）

第一部 基調講演 13:40～14:40

『ティーチングにおける知的活動の表象：教授・学習を可視化する』
ダニエル・バーンスタイン（ISSOTL次期会長、カンザス大学）

授業実践は、その手続きや結果、そして振り返りという全体像で捉えなければならない。自分が授業で何を行ったかを思い起こし、その授業で学生に学びが生じたかを確認することによって、我々はティーチングの質をもっとも高めることができる。そのようにして確かめられたことは、他の教員が新しく効果的なコースを創る際に利用可能である。また、教授デザインを記述し、学生の理解力を測る際に用いた課題を示し、学生の学習のサンプルを提供することによって、教えるという専門的な仕事に対するエビデンスを残すことも可能である。こうしたポートフォリオを作成することで、教員は、それぞれの授業の構成要素が互いに関係しあっているかということがわかるようになる。本講演では、ティーチングにおける知的活動の様々な構成要素を描き出すことができるような、個人の授業改善やプログラムの遂行に有益なポートフォリオの作成例を紹介する。また、教員の「アカデミックライフ」の中で、これらのポートフォリオをどのように作成し、また利用するのかに関するFDの方法論についても紹介する。

第二部 事例報告 & ディスカッション 14:50～17:50

■ 事例報告

- 『各報告の位置づけについて』
酒井博之（京都大学 高等教育研究開発推進センター 特定准教授）
『藍野大学におけるコースポートフォリオの実践報告』
平山朋子（藍野大学 医療保健学部 准教授）
『大阪府立大学高専におけるコースポートフォリオ活用』
土井智晴（大阪府立大学工業高等専門学校 総合工学システム学科 准教授）
『カリキュラム・マップを活用した組織的カリキュラム改善』
小川勤（山口大学 大学教育センター 教授）

■ コメント

- ティーチングポートフォリオの視点から
栗田佳代子（大学評価・学位授与機構 准教授）
SOTLの視点から
ダニエル・バーンスタイン
ICT利用の視点から
飯吉透（マサチューセッツ工科大学 シニアストラテジスト）

- 17:50 閉会挨拶 大塚雄作（京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授）
18:00～19:30 情報交換会